

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒

五竜岳ー北アルプス屈指の大岩峰ー

五竜岳の雄姿(牛首から)



8月上旬、後立山連峰・五竜岳(2814m)に出かけた。深田久弥氏が「山容雄偉、岩稜峻厲、・・・大地から生えたようにガッチリしてビクとも動かない感じ」と『日本百名山』で紹介した北アルプス屈指の大岩峰である。年寄りの山旅でもあり、八方尾根をゴンドラで上がり、遠見尾根をゴンドラで下る大尽旅行で計画した。

夜行バスで白馬駅前に着き、バスで八方集落に着いたら、もうゴンドラ山麓駅は長蛇の列だった。ゴンドラとリフト2本を乗り継いで、リフト終点到着がようやく9時半。身支度を整え9時45分出発。ここから八方池までの登山路は人の波である。一般の客でも、ゴンドラ、リフト利用で標高2000mの八方池まで気軽にハイキングが楽しめるのもご時世か。10時45分八方池到着。ここからの白馬三山の眺望は絶品。八方池から上へダケカンバの林を抜け、森林限界に出るとヤセ尾根になり丸山ケルン。ここで視界が開け、不帰ノ嶮の岩壁が目の前に迫って見えた。

14時15分、唐松頂上小屋到着。寝床を確保した後、カラ身で唐松岳(2696m)に登った。



小屋から仰ぐ唐松岳

山頂往復1時間。翌朝、5時出発で五竜

岳に向かう。小屋を発って直ぐ、牛首の険阻な岩稜の下降。クサリが掛かってはいるが緊張の連続である。ここから仰ぐ五竜岳が見事なはずだが、あまりよそ見する心の余裕がない。次いで大黒岳を



牛首のクサリ場

過ぎた鞍部に

防大ケルンがある。防大山岳部の歴史に痛恨のT君・O君遭難の慰霊碑である。用意の線香を焚き、碑前に額ずき、しばし瞑想の一時を過ごした。

後は、ハイマツの稜線沿いに進み、ツヅラ折りを登りきると白岳分岐。目の下に五竜山荘の赤屋根が見えた。

五竜山荘到着7時半。山荘から五竜山頂への登路



五竜山荘と五竜岳

は、この時間もう、大勢の人が列をなしていた。ガレ場の坦々とした登り。最後にちょっとしたクサリ場を過ぎ、西側から稜線を回り込むように登り、山頂到着8時半。素晴らしい展望。北の唐松岳、南の鹿島槍ヶ岳、西の剣岳などの眺望が欲しいままだった。下山は、先の白岳分岐まで戻り、遠見尾根を下る。西遠見の池塘群を抜け、大遠見、小遠見とひたすら下り、地藏ノ頭のリフト乗り場に辿り着いたのが14時。もう足腰がへろへろだった。

後は、リフト、ゴンドラと乗り継ぎ、最後はヨタヨタ歩きで神城駅着15時。